

# 11階西病棟NSTカンファレンスについて

## NST活動

### 「病棟カンファレンス」

11階西病棟は肝胆膵内科が中心で、主に肝疾患、膵疾患の症例を取り扱っています。また神経内科の方も入院しておられ、必要な症例を対象にしています。カンファレンスではまず、主治医から対象患者の経過を説明いただき、担当看護師から食事摂取の状況を説明いただきます。その後、栄養状態を評価したうえで、参加者全員で必要な栄養学的治療法を検討し、NSTからの提案を電子カルテに記載しています。また必要に応じて、カンファレンス後、管理栄養士が患者のもとへ訪室しています。当院に入院されている方は、他病院から転院されてきた難治例も多く、栄養療法も一通りの対応は既に行われているケースも多いので、さらなる介入について難渋することが少なくありません。参加者の知恵を絞って、何とか患者の栄養状態が上向くよう努力しています。また、当病棟のカンファレンスルームは比較的空間にゆとりがあり、実習の学生や外部からの研修者も受け入れやすい状況です。時間に余裕があれば、カンファレンス後、学生や実習生との質疑応答の時間をもっています。

11階西病棟は、肝硬変患者や肝細胞がんに対して治療介入を行っていますが、特に、非代償期肝硬変患者は、腹水が大量に貯留することで、腹部膨満感が強く、胃が圧迫され摂食できないことで栄養状態が低下します。栄養状態を良くしようとたんぱく質の投与量を増やすと肝性脳症を発症されるケースもあり、治療に難渋しますが肝不全食(低たんぱく食)、分岐鎖アミノ酸(BCAA)製剤を使用し対応しています。膵疾患に対しては、膵がん患者が全国的に増加傾向であり、内科では化学療法中の食欲不振が対象となります。消化酵素剤／膵消化酵素補充剤、消化管蠕動運動改善を期待できる漢方薬とともに、消化に負担の少ない低脂肪食や、脂肪をほとんど含まない成分栄養剤など、主治療の妨げになりにくい栄養療法を提案しています。また、脂肪肝や糖尿病を合併したNASH/NAFLD患者も近年増加しており、外来と病棟とで連携し、継続した栄養療法も必要と考えています。